

第5回広島県学生地域連携活動発表会 当日プログラム

令和8(2026)年9月27日(日) 13:00開会 | 1演題12分(発表・質疑10分+入替2分)

時間	区分・内容	発表大学等	発表テーマ・進行内容
13:00-13:20	開会		主催者挨拶、共催者挨拶、来賓挨拶、来賓紹介
13:20-14:08	前半 第1グループ 人と人をつなぐ共生と地域コミュニティ		
13:20-13:32	発表1	広島大学	外国人住民との共生に向けた住文化理解
13:32-13:44	発表2	叡啓大学	よその広島・うちの広島
13:44-13:56	発表3	福山市立大学	福山発、地域と世界とつながる身近なグローバル
13:56-14:08	発表4	広島文化学園大学	地域の祭りに平和の灯りをともす —小学校との連携を通じた大学生の地域貢献—
14:08-14:56	前半 第2グループ 地域資源を生かすデザインとまちづくり		
14:08-14:20	発表5	広島市立大学	芸備線志和口駅を救う！
14:20-14:32	発表6	尾道市立大学	知っていますか？尾道市御調(みつぎ)町
14:32-14:44	発表7	比治山大学・ 比治山大学短期大学部	短大生の挑戦!!想いを形に ～ヤギ小屋づくりによる地域連携の記録～
14:44-14:56	発表8	広島工業大学	地域と学生が描く 廿日市発の木のもののづくりプロジェクト
14:56-15:06	活動報告	広島都心会議	広島都心部のまちづくりや企業・団体による地域活動を紹介
15:06-15:16	活動報告	HATAful	地域・企業・若者がつながる取組を紹介
15:16-15:31	休憩		休憩・会場移動等
15:31-16:19	後半 第3グループ 食とスポーツからつくる健やかな暮らし		
15:31-15:43	発表9	広島経済大学	スポーツ推進プロジェクト ～スポーツを通じて健康的に暮らせる社会へ～
15:43-15:55	発表10	広島修道大学	食生活デザインプロジェクト ～食べるをもっとアップデート～
15:55-16:07	発表11	広島女学院大学	野菜摂取向上に向けた実践活動報告
16:07-16:19	発表12	安田女子大学	『カワイイが、健康をつくる。 —産官学連携による商品開発プロジェクト—』
16:19-16:55	後半 第4グループ 学生の成長と専門性を社会につなぐ		
16:19-16:31	発表13	県立広島大学	自己プロデュース養成団体「コネクトル」
16:31-16:43	発表14	広島国際大学	地域連携で紡ぐ動物義肢装具の新たな選択肢
16:43-16:55	発表15	呉工業高等専門学校	MECA女養成プロジェクト
16:55-17:10	参加証明書の授与		全発表チームに参加証明書を授与
17:10-17:25	講評・閉会		地域連携、学生の成長、今後の発展可能性を踏まえた講評・閉会
17:25-18:00	ポスターセッション・交流		現地参加者のみ。学生への応援、助言、連携可能性について意見交換



本発表は、2026年度地域の元気応援プロジェクト『くらす×つながる！Hiroshima「街」プロジェクト vol.2～若者と未来をつなぐ定住・多文化共生の仕組みづくり～』の一部です。

調査から見てきたこと

What We Learned from the Survey



412万人

在留外国人数（2025年末 出入国在留管理庁・過去最多）

在留外国人数は年々増加し、2025年末には過去最多を更新しました。広島県でも技能実習生・特定技能外国人・留学生・永住者など、多様な外国人住民が増加していますが、地域住民との継続的な交流の機会は十分とはいえません。

本プロジェクトでは、外国人住民に住居を提供する貸主と借主である外国人住民の双方に質問紙調査およびインタビューを実施しました。その結果、貸主を含む地域住民の多くが、外国人住民の日常生活や「住文化」（住まいや暮らしに関わる文化）について十分な知識を持っていないことがわかりました。そこで、私たちはまず研究チームの出身国の住文化の比較をしてみました。

住居は、文化の違いが見える窓

Housing as a Window into Cultural Differences — Kitchen, Bathroom, Entrance, and Other Daily Living Spaces



玄関

Entrance

住まいへの入り方に見る生活習慣の違い

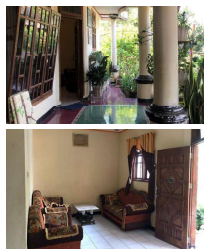
靴を脱ぐ習慣（土足か否か）や来客時の作法など、家に入る瞬間から始まる文化の違いを探ります。



日本



インドネシア



中国

どの国も「家を清潔に保つ」という考えは同じですが、日本の明確な段差に対し、インドネシアでは屋外と屋内の境界が柔軟です。また、ミャンマーでは敬意を表すために靴を脱ぐ文化があり、中国の農村部では中庭などの開放的な空間が玄関の役割を果たすこともあります。それぞれの風土と精神が、空間の作りに表れています。



キッチン

Cooking Practices, Food Preferences, Household Odors

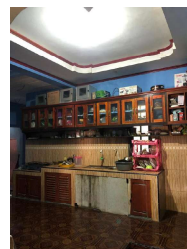
調理方法や香辛料の使い方、匂いの感じ方など、食にまつわる文化の違いが最も表れやすい空間です。



日本



ベールー



インドネシア

日本や中国の都市部ではガス・電気コンロが普及していますが、ミャンマーでは床で調理の準備をするなど空間を柔軟に使う習慣もあります。また、インドネシアでは油や強い香りの料理が多く、洗浄用に複数のシンクを使い分けることがあります。キッチンの使い方の違いは、その国が誇る豊かな食文化を支えるための工夫です。



トイレ・浴室

Toilet and Bathroom Practices Across Countries

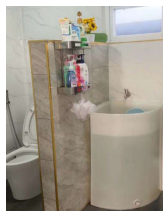
水回りの使い方や清潔観念は国・地域によって大きく異なり、共同住宅でのトラブルにもつながりやすい部分です。



日本



ラオス



中国

日本は浴槽と洗い場が分かれていない構造が多いですが、インドネシアやラオスではトイレとシャワーが同室で、手桶で水をすくって使う習慣が根付いています。中国では乾湿分離の浴室も見られ、ミャンマーには入浴用のかごを持ち運ぶ独自の文化があります。水回りの習慣は、各国の気候やインフラに合わせた知恵の結晶です。



ゴミ出し

Urban-Rural Differences and Local Variations

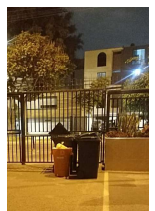
ゴミの分別や収集の方法は国・地域によって大きく異なり、同じ国内でも都市部と地方で差があります。



日本



ミャンマー



ベールー



インドネシア

快適な住環境を守るための「ゴミ処理の仕組み」は、各国のインフラや気候に合わせて多様に発展してきました。住民自身が家庭で分別を担う日本のスタイルに対し、インドネシア、ラオス、ミャンマーなどでは、地域や回収業者が収集後に一括して処理を担うシステムが定着しています。また、中国の都市部のように、コミュニティ単位での共同回収を基本とする地域もあります。これらはすべて、その土地に最も適した形で作られた社会システムです。

今年度の研究視点

This Year's Research Focus

諸外国・地域における住居環境や生活様式を分析し、日本との相違点が地域社会や住宅管理においてどのような摩擦や課題を生むのか、そして、それを乗り越える可能性について探っていきます。

『くらす×つながる！Hiroshima「街」プロジェクト vol.2～若者と未来をつなぐ定住・多文化共生の仕組みづくり～』

* 学生メンバー（広島大学 人間社会科学部 国際教育開発プログラム）

・ ALIMU, Yeerpan (Uyghur, China) 修士2年
・ HANDINI, Lantika Vidara (Indonesia) 修士1年
・ TSURUMARU, Aya / 鶴丸 あや (Japan) 修士1年

・ HAN, Phyu Thet (Myanmar) 修士2年
・ OLAECHEA TERAN, Deborah (Peru) 修士1年
・ VONGKASERM, Viengsavanh (Laos) 修士1年

* 株式会社 良和ハウス

『くらす×つながる！Hiroshima「街」』プロジェクトチームの皆さん
(熱田健輔さん、岸本弘子さん、廣高秀紀さん、藤岡俊輔さん、中村遥子さん、五十音順)

* 本プロジェクト責任教員 広島大学人間社会科学部 研究科・D&I推進機構 櫻井里穂先生

よその広島 うちの広島

～外からの視点で探る、地域連携の新たな可能性～

叡啓大学 1年 岩見 悠利

よその広島（名古屋での経験）



名古屋での経験：縦の繋がり

「名古屋でのボランティア経験」
商業施設での「ボッチャ」体験イベントを手伝い

気づき：

子どもから高齢者までが交流する
「世代間の縦の繋がり」の重要性を実感

うちの広島（広島での発見）



広島での発見：横の繋がり

「安芸門徒との出会い」

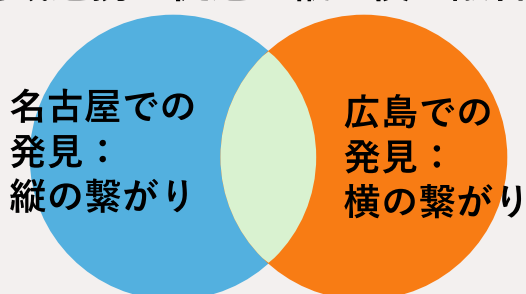
広島の復興を辿る展示施設でのアテンドスタッフ経験中に安芸門徒の存在を知る

気づき：

「安芸門徒」の伝統文化に由来する、強固な
「地域住民同士の横の繋がり」が存在することを見出す

アイデアの発見（提案）

地域連携の促進：縦×横の融合



提案：

上記2つを掛け合わせた、
新たな交流の場を創出

今後の展望

展望：持続可能なコミュニティ

現在：

地域のイベント等に積極参加し、
関係性を構築中

今後：

縦×横の融合のアイデアを活かし、
「よその者」から「うちの者」へ
変化
日常的な対話習慣を根付かせ、
地域コミュニティの活性化に参画



福山市立大学

学生国際協力団体 リエゾン

Liaison

活動理念

～人と人とのつながりを築き
不可能を可能に～

一人では難しいことも、誰かとつながることで道が拓ける。Liaisonの活動は学内外・国内外の多様な人々と団体との出会いから生まれます。活動を通して人と人との輪を広げ、新たな可能性を模索しています。



福山発、地域と世界とつながる
身近なグローバル

福山市の地域課題・背景

多文化共生のまち福山

- ・外国人の人口増加
- ・地域の外国人と住民との交流機会の不足（特に同じ若者同士のつながり）
- ・外国人側の日本語会話、練習の場のニーズ
- ・渡航メンバーの「来日後のサポートへの想い」



ABOUT OUR CLUB

- ・福山市立大学公認サークル
- ・国際ボランティア、海外ボランティア活動
- ・主に開発途上国への教育支援
- ・現在25名で活動中
- ・「Liaison」はフランス語で「つながり」や「橋渡し」という意味

“NEW” 国内活動

つながる日本語ひろば

- ・毎週金曜日、18時～20時
- ・大学の教室を活用
- ・日本語会話実践をメインとした地域の外国人住民と日本人との交流の場
- ・やさしい日本語を使った簡単なレクリエーションや異文化交流



↑
七タ企画



学生ならではの工夫

- ・参加者みんなが楽しめる「トピックトーク」や「日本語ゲーム」
- ・日常生活での困りごとを共有

国・文化を超えて“つながる場”に

- ・日本人大学生と地域の外国人とのつながり
- ・外国人同士の新たなつながり
- ・学生側も異文化理解や学びを得る相互成長の場

SCAN FOR DETAILS!!

最新情報・活動の様子は
こちら！

インスタグラムのフォロー
よろしくお願いします！

質問・問い合わせもお気軽に
DMからどうぞ！



@FCU_LIAISON

地域の祭りに平和の灯りをともし

小学校との連携を通じた大学生の地域貢献

1 背景・目的

山本地域で「暮らす・働く・学ぶ」人どうしのつながりを生み出そうという祭りに、大学生も参加できないかというところから始まりました。

「TOMOSFES」は「灯す」からきており、街にあかりを灯す祭りです。

この祭りにおいて、ランタンで灯りを灯すことに大学生が協力できないかと考え、この活動が始まりました。

目標 1 年齢を超えた活発な交流

目標 2 想像力を働かせて、探究的な活動へのきっかけに

2 山本小学校との連携

地域貢献と平和の学習の一環という同じ目標をもって連携を進めています。

※画像は連携のイメージです



大学生にとって

- 子ども理解が深まる
- 指導する経験を積むことができる
- コミュニケーション力や協働する力が育まれる

小学生にとって

- 大学生との活動を通して、地域を知り、愛着をもつことができる
- 平和についての絵を描くことで、身近な平和を考えることにつながる

3 祭りの様子



子どもたちが描いた灯りが、公園いっぱいに広がりました。

4 成果・今後の展望

成果

- 灯籠に明かりがつくと、たくさん子どもたちが写真を撮っていた。
- 自分の灯籠を探して記念写真を撮るなど、嬉しそうな様子を見ることができた。
- 子どもたちみならず、地域の方々も灯籠がライトアップされると、写真を撮るなど楽しむ様子が見られた。

今後の展望

地域とのつながりをさらに広げ、平和の灯りが未来へと受け継がれる活動にしていきます！

The HUB

～ 芸備線志和口駅を救う! ～

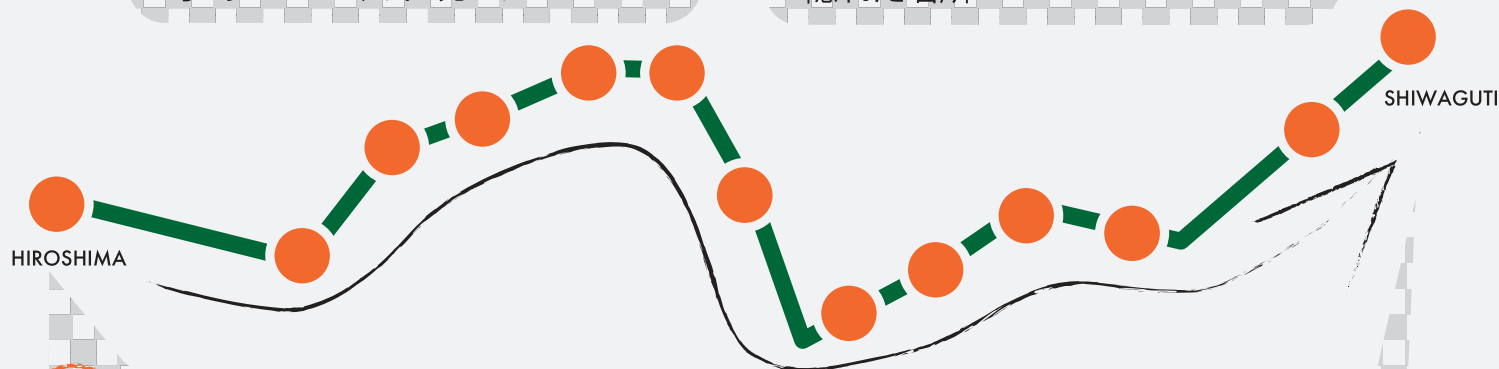
志和口駅の

課題

- ・電車を利用する訪問者が少ない
- ・芸備線の本数が少ない 1時間に1本程度
- ・町を歩いている住民を見かけない

魅力

- ・豊かな自然
- ・住民同士の距離の近さ
- ・隠れた名所



漬野菜スタンプワークショップ

地域で採れる花や草、野菜などを使い子供向けのワークショップを開催。志和口駅周辺に住む住民の雰囲気を知り、これからの活動に活かす。



進志和口まち歩きプロジェクト

現在進行中の企画。

1時間に1本の電車を逆手に取り、1時間で周れる範囲内に看板を設置し訪問者には看板を探してまち（町・待ち）歩きをしてもらうというコンセプト。

看板にはQRコードを添付し読み込むとwebサイトに飛び、現実とスマホの2つで楽しむ。webサイトからは録音した住民の声が聞こえ、住民の存在感を感じることができる。



The HUB のみなさん

こんにちは！私たちは高南 LMO さんと協力し、志和口駅周辺を盛り上げる活動を行っています。私たちが中心（HUB）となって地域住民と来訪者を繋げたいという想いを込めて、The HUBと名乗っています。

知っていますか？ 尾道市 御調 町



① 課題の発見：「尾道」ってどんなイメージ？

山側



海側

尾道は近頃、人気観光地として活気ある印象を受ける。しかしよくメディアで取り上げられ注目されやすい場所は沿岸部に集中しており、「海や坂道、猫、レモン」といったイメージが固定化されつつあることに気づいた。

そこで実際に市民の方からもよく知らないという声が上がった、中山間地域にある御調町への冒険に出かけることに。

② 取材：優しさに溢れる、御調町での出会い

- ・豊かな自然のもと、のんびりした暮らし
- ・畑でとれた野菜などの「おすそわけ」文化
- ・地域包括ケアシステム発祥の地であり、「福祉のまち」を宣言
- ・移住者がまちづくりの中心で活躍

取材で出会った御調町で活躍する人たちのうち 8 割が移住者。外側からの視点で御調町の魅力を発見し、ここで暮らすことを選んだ人たちが、空き家バンクや子育て支援など様々な活動で町を盛り上げている。

・歴史や文化の継承

老舗和菓子屋の近藤製菓店や伝統を守るため設立された尾道柿園では、移住者が事業継承予定。他にも綾目（御調）神楽の継承でも移住者が活躍するなど、地元住民と移住者が手を取り合っ一緒に活動している。

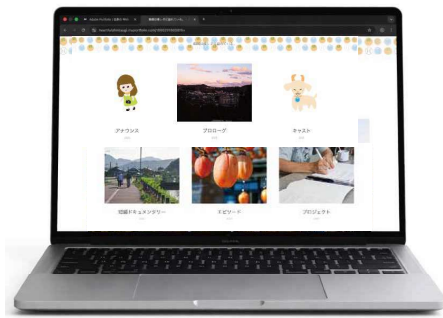
など...



③ 目的と企画：観光促進ではなく、地域住民にこそ届けたい

「御調町がもっと注目されるには何を生み出せばいいだろう？」と考えていたが、昔からあるものを大切にしながら続ける人々の温かな暮らしを目にし、今やるべきことは新名物の発案や既存の名物のリデザインではなく、昔から町で愛され受け継がれてきたものについて知ることや考えていく「きっかけ」を作ることだと考えた。

④ 制作と活動：「伝える」だけで終わらないためのプロジェクト 『御調は優しさに溢れている。』



WEB サイト運営



短編ドキュメンタリー制作



知る

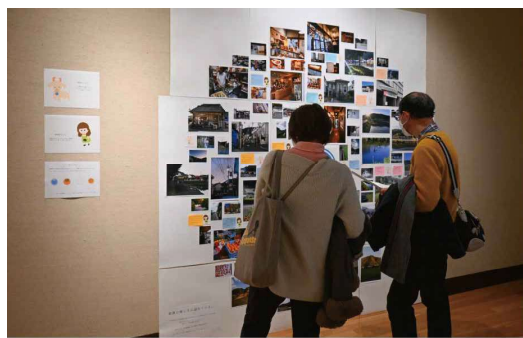
交流する

体験する

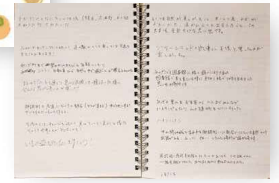
一緒に考える



SNS 発信



写真展示



イベント「みんなの御調共有ノート」

展示
発表活動

2026.1/30 ~ 2/1 @MOU 尾道市立大学美術館

「デザイン × 私のまち」第 23 回地域プレゼンテーション
展覧会

2026.2/11 @しまなみ交流館

「デザイン × 私のまち」第 23 回地域プレゼンテーション
発表会

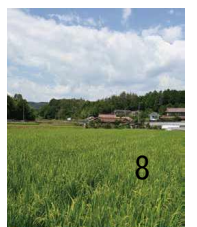
2026.2/27 @しまなみ交流館

第 9 回尾道映画祭
(若手育成プログラムにて短編ドキュメンタリー上映)

⑤ 現在と今後の活動

御調町での取材を続け新たな出会いや魅力を発信する中で、支援システムや文化の継承、自然など町民の暮らしの中に「循環」しているものの存在があることを発見する。制作や活動のテーマに循環をとり入れることでの展開を考えている。

また、当活動を通して出会った道の駅クロスロードみづぎにて開発中の芋焼酎「御調黄金」のラベルデザイン制作に取り組んでいる。芋の生産者である尾道ファームを見学し、中山間地域の農業の課題への理解を深めるなどした。農業の未来を考える会社から生まれる新商品として、その役割を果たして力になることができるデザインの提供を目指している。



短大生の挑戦!! 想いを形に♪

～ヤギ小屋づくりによる地域連携の記録～

人と自然の調和を大切にしているサゴタニ牧場で、大型の牛では小さな子どもが恐怖心を抱くことがあることから、親しみやすいヤギに着目し、かつ放牧地の環境を保てる「ヤギの移動式ハウスによるふれあい空間」を提案しました。

01 サゴタニ牧場ってどんな場所？

02 ヤギ小屋を作ることになった背景



サゴタニ牧場は、広島県広島市佐伯区湯来町にある自然豊かな酪農牧場です。日本でもわずか2%しか実践されていない放牧酪農に取り組み、人と自然の調和を大切にしています。

自然の中でこころよく暮らしたい



提案に先立ち、サゴタニ牧場の成り立ちや地域との関わりを調査し、久保さんから牧場を学びと交流の場として育てたいという理念を伺った。これらの考えは、課題解決の方向性を定める重要な基盤となりました。



03 現地調査と課題発見

04 グループ活動

1. 放牧計画とヤギの生態を踏まえた空間計画

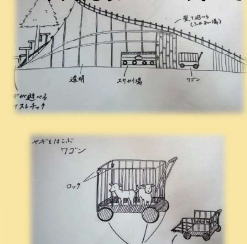
今回の計画敷地は約400㎡と小規模なため、現地の・実験的に放牧を進める必要があると考えた。また、ヤギは高い場所を好み雨を嫌うといった習性を加味し、大きな屋根や日陰の確保が重要であることが分かった。そこで、小屋の高さを約120cmとし、風通しを要する窓を設けることを検討した。さらに、日常的な掃除のしやすさやヤギ・人の安全性にも配慮し、管理しやすい小屋づくりを目指した。

2. 循環型放牧と共生の価値軸

放牧による環境劣化を防ぐため、放牧地の循環や土台の安定対策が必要であり、小屋には一人でも移動できる構造が求められる。併せて、自然を活かし人がつくる空間づくりも重視されている。これらを踏まえ、「ヤギの暮らしやすさ」「耐久性」「移動のしやすさ」を大切に、自然・人・ヤギをつなぐ提案が必要だと分かった。



小屋のサイズが
大きすぎた

第一回グループ編成・
中間発表による気づき

グループ分けを行ったうえで、各自が情報収集を行い、その内容をグループ内で共有しながら小屋づくりに関する理解を深めた。集めた情報をもとに、設計や機能面が重要だと考えられる点や工夫できる点について意見交換を行った。その後、これまでの検討内容を整理して中間発表を実施し、他グループや教員から多くの意見や指摘を受けた。発表を通して、自分たちでは十分に検討できていなかった視点や課題に気づくことができた。計画の目的や方向性を改めて見直す必要性を実感した。この経験は、小屋づくりの計画をより具体的に実現性の高いものへと発展させるための重要なきっかけとなった。

05 IROHA villageの見学



自然を大切に
する姿勢がサゴタニ牧場と
似ていると感じた



3D模型や実際の組み立て
作業も勉強になりました♪



建物も空間も緑に
包まれていて、自然の中に
溶け込む心地よさがあった

計画を見直す
転機になった

使いやすさと自然との調和、
どちらも大切

完成♪



今回の活動は、実際に使われる小屋を自分たちでデザインし、形にする初めての経験だった。最初は不安もあったが、それ以上にわくわくした気持ちが多く、自分たちの考えたものが形になり、牧場に設置されることに強い責任感を感じた。最終的な設計と違い、実際に使われる小屋は、自分たちの考えたよりも、より安全で、より快適なものになることを目指す。今回の活動を通して、自分たちの考えたものが形になり、牧場に設置されることに強い責任感を感じた。最終的な設計と違い、実際に使われる小屋は、自分たちの考えたよりも、より安全で、より快適なものになることを目指す。

地域と学生が描く 廿日市発の木のものづくりプロジェクト

ーインバウンドに向けた産学官プロダクト開発ー



販売元：きくら

01 背景・目的

✿ 世界遺産・宮島への訪日客急増

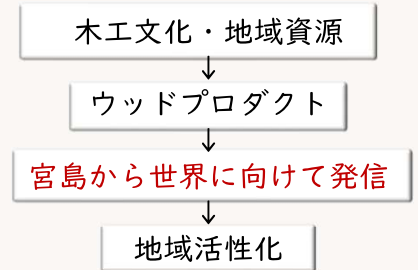
宮島を訪れる欧米・アジア層の外国人観光客は増加傾向にあり、旅先での独自文化体験への関心が高まっています。

✿ コト消費・ストーリー消費へのシフト

量産型のお土産から、「職人の技」「素材の歴史」「日本の美意識」を感じられる質の高い木製品が求められています。

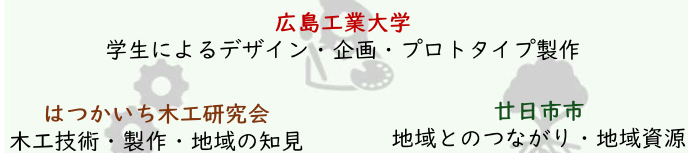
✿ 廿日市市が持つ木工文化の発信

宮島杓子の歴史に裏付けられた高い木工技術と豊かな木材資源を、世界へ発信できるブランドとして再定義します。



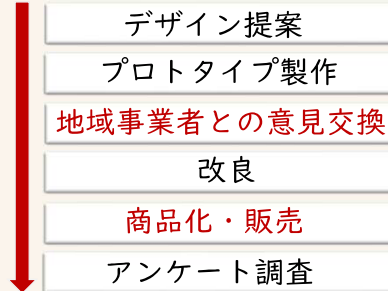
02 産学官連携による商品開発

03 商品と文化を世界に



学生が提案したデザインをもとに、木工研究会や地域事業者と意見交換を行い、プロトタイプ製作・改良を重ねながら商品化を進めました。

ターゲットはインバウンド



04 商品化

「花咲く器」 クリ、サクラ、トチ、ヒノキ、ホオ

桜の花びらをモチーフにした木製の小物入れ。磁石で容易に分割・連結でき、木の温かみと桜の美しさを楽しめます。旅の記憶を日常に持ち帰る、お土産や贈り物にも適したデザインです。



「追憶の栞」 ヒノキ

宮島・弥山大本山大聖院の照明器具をモチーフにした六角形のランプシェード。ヒノキにレーザー加工で宮島の風景や歴史を描き、灯りによって幻想的に浮かび上がるデザインです。宮島の情景を、やさしい光とともに感じられます。



05 成果

商品化
学生提案の2品
を商品化

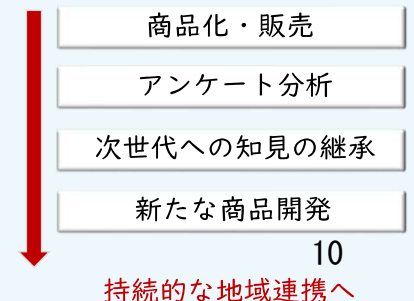
販売・分析
販売を通じた市場
評価の収集

地域連携
大学と木工研究会・地域
事業者との協働

情報発信
新聞・ラジオなどを通じ、
廿日市の木工文化を発信



06 今後の活動



スポーツ推進プロジェクトとは？

私たちは、子どものスポーツ推進を通じて、「体の健康」と「心の健康」の増進に貢献することを目的としています。運動は生活習慣病やうつ病の予防につながり、幼少期のスポーツ経験は将来の運動習慣の形成にも大きく影響します。しかし、運動が苦手であることや競争的な環境への抵抗感からスポーツに触れる機会がない子どもや、燃え尽き症候群やレギュラーにならないことを理由にスポーツを離れてしまう子どもも少なくありません。そこで、運動習慣のない子どもには広島ならではのスポーツ資源を生かした体験機会を、スポーツの継続に課題を抱える子どもには勝敗や競技力にとらわれず活躍できる出場機会を提供し、生涯にわたってスポーツに親しみ、健康に暮らせる人を増やすことを目指して様々な活動を行っています。

活動紹介

1

スポーツをしていない子どもが、スポーツに出会う機会の創出

スポーツをしていない子どもが新たにスポーツに触れ「本格的に始めたい」と思うきっかけを作ることが目的で、「ここで遊んでかない？スポーツひろば」というイベントを毎月開催しています。

スポーツ全般に共通する9つの動作（走る、跳ぶなど）を基にした多様なゲームブースと、人工芝の上で思いっきり遊べるフリーブースを設け、スポーツに興味を持つきっかけになればと行っています。

また、安佐南区保健センターと連携し健康について学ぶブースを設置することで、子どもだけでなく保護者にも、自身の健康状態を知る機会を提供する予定です。



2

既にスポーツをしている子どもが、今後も続けられる環境づくり

既にスポーツをしている子どもでも、様々な理由で辞めてしまうこともあります。子どもたちが楽しみながら長くスポーツを続けられる環境づくりを目指し、野球とサッカーで「FLPカップ」を主催しています。

普段あまり試合に出場する機会の少ない子どもの出場する場を作ることに加え、勝敗や競技力にとらわれず、仲間と協力してスポーツを楽しむことを目的として開催しています。

これまでに、協働団体である株式会社フレスタから提供を受け、参加する子どもたちを支えていただきました。こうした地域企業との連携を通じて、子どもたちが安心してスポーツを楽しめる環境を整えるとともに、地域と協力しながらスポーツを通じた健康づくりを推進しています。



食生活デザインプロジェクト～食べるをもっとアップデート～

拠点：横川駅周辺

株式会社フレスタホールディングス様に
ご協力いただき、
三篠公民館で活動を行いました！

目的

核家族、単身世帯、共働き世帯の増加で家族との供食の機会が減り、食事の欠損や簡略化が進んでいることが問題視されている。
幅広い年代の方々に食生活のリテラシーを身に付けてもらい、食に関する問題を自分事として考えてもらう。

8月 料理教室

イベント概要

楽しみながら学び、実体験を通して理解を深めてもらうことをテーマに、地域の子どもたちに供食や朝食の大切さ、無理なダイエットの危険性など、身近な**“食の問題”**について考えられるようなワークショップ、子どもたちが食材を選んで購入するまでを体験できるお買い物体験、親子で楽しく作れる料理教室を行った。

〈当日のメニューレシピ〉



自分たちでレシピの案を練って考えた、親子で協力して作れて栄養満点な「夏野菜カレー」と「フルーツポンチ」。

ワークショップ

身近な食の問題についてのプレゼンテーションを行った。子どもやその保護者の方に、自分事として食に関する問題について考えてもらえるように、グループディスカッションの時間を設けるなど、楽しみながら学べるクイズを用意して、参加型の学習を意識した。

〈スライド〉



料理

レシピ表をもとに、**子どもが主体**となって調理を行った。学生や保護者に助けられながらも、一生懸命に取り組む姿が印象的であった。野菜の盛り付け方や白玉の丸め方に工夫が見られ、**個性あふれる料理**が完成した。

〈お買い物体験〉

各グループに出された購入リストとお金をもって、フレスタ横川本店にお買い物を行った。



参加者の感想

- ・朝食を抜く人が大人になるにつれて多くなるというデータを見て、**自分はもちろんのこと、子ども達にも朝食をしっかりと食べさせようと思った。**
- ・普段家で料理をしない子どもが同年代の子と料理体験をすることができ活き活きとしていた。
- ・実際に子どもが主体となって買い物をする体験を取り入れることで、**普段することのなかった食材選びや会計まで自分でできて楽しかった。**



成果・反省点

いただいた感想から、「楽しかった」「また作ってみたい」といった前向きな意見が多く見られ、本企画が**食に対する意識を見直すきっかけづくり**につながったと考えられる。
また、普段は忙しく、子どもと料理をする機会が少ない保護者にとっても、子どもの**主体的に取り組む姿や新たな一面を発見する機会**となったといえる。
この料理教室を通して、**対象を限定せず幅広い世代**に向けて、食の大切さを伝えていきたいと考えた。

活動内容

反省

11月 三篠公民館まつり

イベント概要

子どもから高齢の方まで、幅広い年齢の方が訪れるまつりのため、料理教室では伝えることのできなかった年齢層の方や、**食に関する問題に関心がない人も、食について学ぶ機会**にしたいと考え開催した。主に**試食の提供、パネルの制作・展示**を行った。

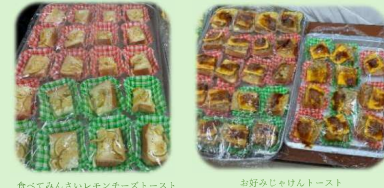
〈活動風景〉



料理の提供

自分たちで考案した簡単かつ栄養の取れる食パンアレンジの**レシピの配布**と、**試食の提供**を行った。**手軽に作れて栄養もしっかり摂れるような簡単レシピ**をいくつか考案した。

〈実際に提供した試食〉



若い世代の方には「お好みじゃけんトースト」、親世代の方には「食べてみんさいレモンチーズトースト」が、特に人気だった！

〈実際に配布したレシピ〉



1日100食作った試食のトーストは正午過ぎにはすべてなくなった！

ポスター展示

自分たちのこれまでの**活動内容**や、制作したトーストにまつわる**食材のクイズ**、自分にピッタリなトーストが診断できる**トースト診断**などのポスターを作り展示した。また、自分の体で楽しくクイズに答えてもらうために、答えは紙をめくって確認するような方式を取り入れた。

〈実際に展示したパネル〉



ポスター展示に訪れた人に学生が分かりやすく説明！

成果・反省点

展示を見に来てくださった多くの方とコミュニケーションを取り、食生活について話したり、レシピのおすすめポイントを紹介したりすることができた。
また、試食を提供することでより多くの人に興味を持ってもらうことができ、食への関心を高めることにつながった。
さらに、レシピを配布する際に「おいしそうだから作ってみる」「これなら朝から食べられそう」といった感想をいただき、朝食の提案を具体的にを行うことができたと考えられる。

振り返り（1年間の活動を通して）

2つのイベントを通して、子どもと高齢者に比べ、20代から30代の一人暮らしの人には朝食を抜く人が多いという印象を受けた。そのため、今後は若い世代を対象に、食習慣を見直すきっかけとなるイベントを企画したい。

広島修道大学 地域つながるプロジェクト

「食生活デザインプロジェクト～食べるをもっとアップデート～」

野菜摂取向上に向けた実践活動報告

広島女学院大学 食育サークル 大滝優花 藤井麻央

○広島女学院大学食育サークルは、大学内の学生食堂での「ベジフルランチ」のレシピ提供を通して、若年層の野菜摂取向上を目的とした取り組みを行っている。また、地場産物の魅力発信を行い、地産地消につなげた活動を行っている。

地場産物の魅力発信・地産地消の推進

地場産物の理解を深めるため、「しまなみリーフ」（因島）や「ほうれん草」（北広島町）の生産現場の見学や出荷作業体験、生産者との交流を行った。収穫体験を通して、作業の大変さや刈り取るときに力加減の難しさを感じた。包装をする際には痛みやすい部分を取り除くことで、見た目の悪化を防ぐなどの消費者に手に取ってもらうための工夫を知ることができた。

食材のPRのためにレシピを考案し、ベジフルランチの他、レシピ集の作成・配布、COOKPADへの掲載、子ども食堂や料理教室などに提供している。また、大学祭では「しまなみリーフ」の販売とともに野菜摂取判定の体験ブースも設置した。この判定体験が、会話を楽しみながら野菜摂取について考えたり意識したりする機会になったと感じた。レシピ集には「参考になる」「食材の使い方が分かった」などの声をいただいた。この体験からコミュニケーションや説明する際の工夫なども学ぶことができた。



ベジフルランチの提供

毎月19日「食育の日」を含む週に、大学内の食堂でサークルで考案したメニューを提供している。テーマには、食品ロス削減や地産地消促進のような社会問題や、七夕やハロウィンのような行事を取り入れている。生産地見学等を行った食材も積極的に使用して地産地消のPRにつなげている。「ベジフルランチ」は、広島市の「元氣じゃけん定食」にも認定されている。

メニュー決定においては、食堂会議を行い、使用したい食材が実際に仕入れられるか、食材費が予算内に収まるか、調理工程が複雑にならないかなど、様々な条件を同時に考えている。また、メニューに飽きないように主菜を肉または魚を用いたり、「ひろしま給食」を取り入れたりしている。野菜量を十分にとり入れることや栄養バランスだけでなく、彩りや味付け、調理方法が重ならないよう献立を組み合わせたり、料理全体の彩りが偏らないよう食材の種類や色のバランスも考えている。さらに、学生が食事に興味を持てるようポスターの作成・掲示も行っている。

喫食者を学生に限らず、地域に開放する取り組みを行っている。これにより、学生だけでなく、地域の方々の野菜摂取向上にも働きかけたいと考えている。ランチは概ね完売するものの、提供する食数が30食/日と少ないため、多くの対象者に対して野菜摂取向上の働きかけができていないことが課題である。より多くの方に食べてもらうために、「おいしそうだから食べたい」と思ってもらえるような、意識することなく野菜を摂取できる環境づくりを、より重要視していくべきだと考えている。



ベジフルランチ(例)

テーマ「食品ロス削減」
6月 ひろしま給食メニュー
・ご飯
・ひろしまトンチキレモン
・キャベツのゆかり和え
・ひろしま汁
・フレーフレー!! サンプレぶどうゼリー



テーマ「地産地消」
11月 魚メニュー
・ご飯
・タラのタルタルソース焼き
・しまなみリーフときのこのソテー
・サニーレタスと大根のさっぱりサラダ
・じゃがいものミネストローネ
・りんご



テーマ「七夕」
7月 魚メニュー
・ご飯
・アジの南蛮漬け
・きゅうりのキムチ和え
・じゃがいもとしめじのバター炒め
・七夕そうめん汁
・みかんソーダゼリー



テーマ「ハロウィン」
10月 肉メニュー
・ご飯
・チキンのトマト煮
・さつまいもとりんごのサラダ
・ほうれん草のソテー
・たまごとコーンのスープ
・ぶどうゼリー



今後の展望

- ベジフルランチの提供数を増やし、より多くの学生に食べてもらい、健康的な食生活の普及に貢献する
- 地域の方や近隣の幼稚園の保護者の方などにも「ベジフルランチ」の情報を発信し、食べに来ていただくことで、学生だけでなく多くの方々に野菜摂取向上にも寄与したい
- 引き続き生産者との交流を通し、自身が地場産物への理解を深めながら、ベジフルランチへの地場産物の活用を積極的に行い、地場産物の魅力を発信し、地場産物の推進に繋げていく

カワイイが、健康をつくる。

安田女子大学 公共経営学科4年



津森・徳住・藤井・福田

一産官学連携による商品開発プロジェクト

本活動では、若者の栄養不足や不規則な食生活という課題に着目し、無理なく健康的な食生活を始めるきっかけとなる商品開発に取り組みました。また、広島県が推進する「おいしいけえ！広島(OK!!広島)」プロジェクトの理念を取り入れ、健康と地域の魅力を同時に発信できる商品を目指しました。

学生アイデアが商品になりました！

おいしいけえ！広島(OK!!広島)の理念を取り入れて開発！

若い女性をターゲットに、O「お手軽・おいしい」K「かわいい・健康」をコンセプトとした4商品を開発！

01 OK!!3種こむすび



一口サイズで食べやすい！

02 OK!!混ぜて楽しむかぼちゃの雲ポタ



ラスクで満腹感UP！

03 OK!!レモン香る冷製茶碗蒸し



夏にぴったりさっぱり仕立て！

04 OK!!ほうれん草のカラフルオムレット



罪悪感の少ないスイーツ！

「お手軽・おいしい」×「かわいい・健康」

思わず手に取りたくなる“カワイイ”を入口に、無理なく健康につながる商品を目指しました。

アイデアから商品化までのストーリー

01 課題発見

若者の栄養不足や不規則な食生活に着目

私たちの世代の課題だからこそ、自分たちの目線で考える。

02 アイデア企画

若い女性をターゲットに「お手軽・おいしい」「かわいい・健康」をコンセプトに企画。

思わず手に取りたくなる見た目やネーミング・パッケージにこだわる。

03 意見交換・実現性の検討

企業や行政との意見交換を重ね、価格設定や製造面などの実現可能性も考慮。

さまざまな視点からのフィードバックをもとに、より良い商品へブラッシュアップ。

04 商品化・販売

学生のアイデアが商品になり、セブンイレブンで販売

実際の店舗で販売できる商品を目指して開発。

05 データ分析・検証

販売後のデータを分析し、商品の価値や新たな市場ニーズを発見。

データを次の開発へ生かす重要性を体感。

この活動を通して、私たちが特に感じた3つの収穫

01 失敗を次に繋げる力

うまくいかなかったことも、次の挑戦につながる大切な学びに。原因を考え、方向転換し、改善を繰り返すことで、失敗を次の一歩につなげられるようになりました。

失敗 → 原因を考える → 方針転換・改善 → 次の一歩！

02 アイデアを社会に届ける力

「考える」だけで終わらず、企業や行政と協働し、実際の商品化・販売・検証まで実現しました。アイデアを社会に届ける「実現する力」が身につきました。

03 課題を自分たちの目線で捉え直す力

データだけでなく、課題の当事者である若者自身の視点から課題を捉え、「本当に手に取りたくなるもの」を考え、解決策につなげました。

これからの私たち

本活動で培った「エラー＆ラーン」の姿勢を大切に、失敗を恐れず改善を重ねたい。また、データに基づく客観的な分析と企業・行政それぞれの制約を踏まえた実現可能性を意識し、課題解決に主体的に取り組める人材を目指していきます。

起業部「コネクトル」

さあ、自己プロデュースをはじめよう！

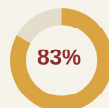


■ 現状

83%

本学1・2年生**70名**へのアンケートで、
83%が「自分の強みを言語化できていない」と回答。

【調査実施】2026年6月／【対象】本学1・2年生 70名（学部横断）



■ 課題

強みを言語化できないと、自分の能力を活かした行動を選べない。その結果、報酬や外部からの評価を得る経験を積めず、視野・自信・野望といった「自分軸」が形成されないまま学生生活を終えてしまう。この状態の学生が多数を占めていることが、広島県の若者全体の挑戦量が伸びない要因となっている。

言語化できない

→ 行動を選べない

→ 評価・報酬の経験ゼロ

→ 自分軸が育たない

■ 私たちの立場

大学生は、人生で最も自由に時間と選択肢を使える時期である。この時期に自分軸を形成し、時には企業を巻き込みながら白らの夢や野望を実現する経験を積むことが、その後の挑戦の土台となる。学生である私たち自身が当事者としてその機会をつくる。

■ 目的

個人目標

自分の強みを言語化し、それを活かして
機会を獲得できる状態（＝自己プロデュースができる状態）をつくる。

全体目標

- ◆ 100万円を稼ぐ
- ◆ PJごとの野望を、学生それぞれの強みを使って実現させる。
- ◆ 店舗に冷凍庫を置いてもらう

■ 進行中のプロジェクト



幻墨 げんぼく

ARで、書道を世界へ。

熊野筆の書道筆と日本の書道文化の海外普及を目的としたプロジェクト。企業と連携し、ARと書道を掛け合わせた体験型イベントの企画・運営を学生主体で行っている。書道体験を入口に、海外の方へ日本文化を届ける。

■ 始動 2026.3 ● 人数 4名

直近実績：2026年7月 学内で留学生向けイベントを実施（留学生メンバーも企画に参加）

次のアクション：得られた学び（日程設計・集客用サンプル動画の必要性）を次回企画へ反映。



尾道タケタケ

学生の目線で、地域の商品を売る。

学生の視点から地域商品の魅力に向き合い、発信するプロジェクト。尾道の放置竹林問題を解決するために開発された商品「尾道タケタケ」のPRを企業から依頼され、学生らしく柔軟に活動している。

■ 始動 2025.12 ● 人数 6名

直近実績：流行の動画形式を参考に、部員が試食して一言レビューする動画を制作。

次のアクション：イメージキャラクターを制作し、SNS広報をさらに活発化させる。

地域連携で紡ぐ

動物義肢装具の新たな選択肢

広島国際大学

APO Committee



動物義肢装具という選択肢を広げる

広島県の安佐動物公園から山田先生へ寄せられた、キリンの装具製作依頼が活動の原点です。そこから活動の幅を広げ、現在は動物病院や動物園、保護団体などと連携し、人の義肢装具の知識と技術を活かした義肢・装具・車椅子の製作や開発に取り組んでいます。



地域との連携例



動物病院

診察をもとに、義肢装具が必要な動物をご紹介いただき、製作後の経過も連携して確認しています。



動物園 愛護センター

獣医師や飼育員の方から動物の状態や困りごとを伺い、それぞれの生活環境に合わせて製作します。



地域のドッグトレーナー

姿勢や歩行の悩みに対し、義肢装具の知識を活かした汎用性のある装具を共同開発しています。



より多くの方に動物の義肢装具を知ってもらうため、イベントへの出展やSNSの発信にも取り組んでいます。
製作のご相談・ご依頼も受け付けています。
詳しくは [Instagram](#) をご覧ください。

詳しくは
こちらから



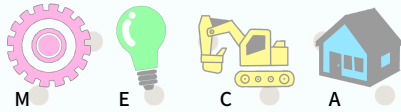
@HIU_ANIMAL.PO

MECA女養成プロジェクト

呉工業高等専門学校

三年生4人、二年生5人の
合計9人で活動中

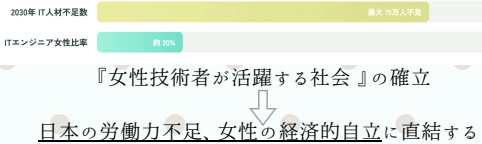
00.MECA女とは？



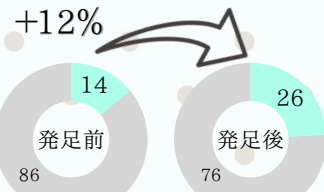
MECAの4学科の女子学生を増やし
『女性技術者が活躍する社会』
の確立を目指す。

01.背景

- ・日本のリテラシー率はOECD加盟国の最下位13%。
- ・日本の女子の数学・科学力は世界1位レベルにも関わらず、女性研究者の割合は約20%と最下位。
- ・2030年にはIT人材が最大約79万人不足すると予想されている。



02.MECA女の実績



10年以上の活動で、MECA女発足から
呉高専の女子学生比率が12%増加。そ
の後も、毎年度増加中。

03.活動内容

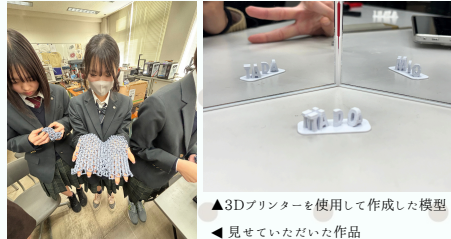
○なんでも相談会

学校見学会で行われる、中学生から直接声を
聞く機会。受験で悩んでいる中学生や、親御さん
の悩みを解決。



○他高専交流

神戸高専さんに訪問、実際に行っているという
ワークショップを体験させてもらった。今年度は北九州高
専と高知高専への訪問を予定している。



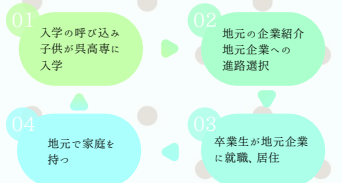
○中学校訪問

・府中町立府中中学校に訪問。
・生徒に学校紹介、授業体験、
ワークショップを実施。



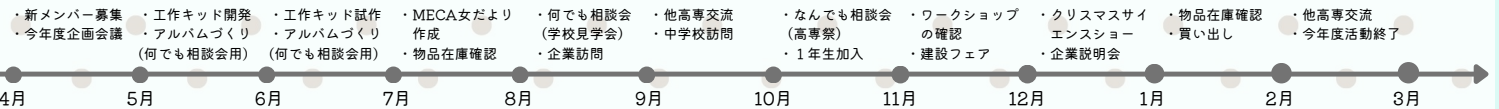
○地元企業紹介

1-3年生のLHRで企業説明会を実施
(協力:呉高専地域コンソーシアム)



若者の地元定住サイクルを推進。
Iターン時の就職先候補にも。

○今年度の年間活動



○MECA女だより

- ・呉高専での生活や学生の声、
MECA女の活動を記事に。
- ・学生が企画し、自ら情報収集
して作成。
- ・SNSでの発信。
- ・相談会で中学生に配布。
- ・在校生に向けた記事もとあ
り校内で配布や掲示をする、
入学後のサポート。
- ・校内配布は今後行う。

・本日0号,1号配布中!!!!

○ワークショップの出席

なんでも相談会やクリスマスサイエンスショーで出席。進路を決める段階の子たちに、
ものづくりの楽しさを伝えることで、呉高専に進学するという選択肢を増やす。

- ・機械工学科 } マツダさんとの
・電気情報工学科 } 交流で情報収集中
- ・環境都市工学科...キャンドルスタンドづくり
- ・建築学科...インテリア模型づくり



クリスマスサイエンスショーに出席時の様子

○GCON2025

高専GIRLS SDGs×Technology Contestに参加。89チ
ーム中 ファイナリスト賞、三菱電機エンジニアリング賞を受賞。

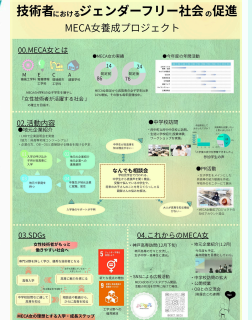
三菱電機エンジニアリング賞

技術者における
ジェンダーフリー社会の推進

呉高専
MECA女養成プロジェクト



工学分野に携わる女性への固定観念を覆すため、
高専進学や学びの魅力を発信。相談会や企業説明
会を通じ、不安に寄り添いながら女性技術者の育
成と社会参画の促進を目指す活動が評価された。



04.これからのMECA女

○MECA女の理想とする 入学・成長ステップ

中学校訪問など通して
高専を知る

相談会や動画から、
さらに高専を知る

女子も活躍しているな
入学したい!

高専入学

高専に魅力を感じる

知る機会をPR活動で

専門分野を詳しく学び、優秀な技術者となる

女性技術者がもっと働きやすい社会へ

○今後のMECA女

01 MECA女の活動を活性化

02 他高専へ認知を広げる

03 MECA女の類似組織が増加

04 各地域での環境づくり



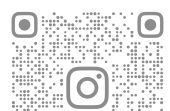
ビジョン

他地域でも女子学生の
受け入れ強化、
また女子学生の技術分野
での活動を目指すために
活動を広げる

05.SNS

MECA girl
development project

Instagramで活動発信中!
フォローお願いします!



@KNCT_MECA